

作成日 平成 7年 2月 4日  
改訂日 令和 5年 1月 26日

## 安全データシート

### 1. 化学品及び会社情報

化学品の名称	ライトクリスタル L-AKn
製品整理番号	BA004
供給者の会社名称	株式会社ウォーターエージェンシー
住 所	162-0813 東京都新宿区東五軒町 3 番 25 号
担当部門	ケミカルサービス事業本部
TEL	03-3267-4073
FAX	03-3267-4106
緊急連絡電話番号	同 上
推奨用途および使用上の制限	工業用消臭剤

### 2. 危険有害性の要約

#### 化学品の GHS 分類

物理化学的危険性	分類できない又は区分に該当しない	
健康に対する有害性	急性毒性（経口）	区分に該当しない
	急性毒性（経皮）	分類できない
	急性毒性（吸入:気体）	分類できない
	急性毒性（吸入:蒸気）	分類できない
	急性毒性（吸入:粉塵）	分類できない
	急性毒性（吸入:ミスト）	分類できない
	皮膚腐食性/刺激性	区分に該当しない
	眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性	区分に該当しない
	呼吸器感作性	分類できない
	皮膚感作性	区分に該当しない
	生殖細胞変異原性	区分に該当しない
	発がん性	分類できない
	生殖毒性	区分に該当しない
	特定標的臓器毒性(単回ばく露)	分類できない
	特定標的臓器毒性(反復ばく露)	分類できない
	誤えん有害性	分類できない
環境に対する有害性	水生環境有害性 短期(急性)	区分に該当しない
	水生環境有害性 長期(慢性)	分類できない
	オゾン層への有害性	分類できない

#### GHSラベル要素

絵表示又はシンボル	なし
注意喚起語	なし
危険有害性情報	なし
注意書き	

#### <安全対策>

- ・全ての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。
- ・保護手袋、保護衣、保護眼鏡、保護面を着用すること。
- ・粉じん、ミストを吸入しないこと。
- ・取扱い後は手をよく洗うこと。

#### <応急措置>

- ・皮膚(又は髪)に付着した場合:直ちに汚染された衣類を全て脱ぐこと。皮膚を水【又はシャワー】で洗うこと。
- ・眼に入った場合:水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。
- ・飲み込んだ場合:口をすすぐこと。無理に吐かせないこと。
- ・吸入した場合:空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
- ・気分が悪い時は、医師の診察、手当てを受けること。

- <保管> ・日光から遮断し、換気の良い場所で保管すること。容器を密閉しておくこと。涼しいところに置くこと。施錠して保管すること。
- <廃棄> ・内容物及び容器を都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に業務委託して廃棄すること。

## 3. 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別	混合物		
化学名又は一般名	①緑茶乾留エキス	②抗菌剤	③水
化学物質を特定できる一般的な番号	①CAS No. なし	②CAS No. 8001-54-5	③CAS No. 7732-18-5
化学式	①非開示	②C <sub>21</sub> H <sub>38</sub> ClN	③H <sub>2</sub> O
成分及び濃度又は濃度範囲	①緑茶乾留エキス 非開示	②抗菌剤 非開示	③水 非開示
官報公示整理番号（化審法）	① —	② —	③ —
（安衛法）	① —	② —	③ —

## 4. 応急措置

吸入した場合	直ちに新鮮な空気のある場所に移動させ、安静、保温に努める。気分が悪い場合は、医師の診断、治療を受ける。
皮膚に付着した場合	直ちに汚染された衣服を全て脱ぐこと。皮膚を水で洗うこと。
眼に入った場合	水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。
飲み込んだ場合	口をすすぐこと。無理に吐かせないこと。
急性症状及び遅発性症状の最も重要な徴候症状	知見なし。
応急措置をする者の保護に必要な注意事項	ゴーグル、保護衣、樹脂製手袋等の保護具を必ず着用する。
医師に対する特別な注意事項	特になし。

## 5. 火災時の措置

適切な消火剤	水、二酸化炭素、粉末消火剤。
使ってはならない消火剤	知見なし。
火災時の特有の危険有害性	知見なし。
特有の消火方法	火災の周辺にある容器は、速やかに安全な場所に移動させる。移動できない場合は散水冷却する。 火災によっては、有害ガスが発生するおそれがあるため、消火作業は風上から行う。火災地域周辺に人が立ち入れないようにする。
消火活動を行う者の特別な保護具及び予防措置	燃焼ガスには有害物質が含有しうるため、これらの吸入を防ぐために適切な呼吸保護具等を着用する。また、保護衣、保護眼鏡、保護手袋等の保護具を必ず着用する。

## 6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置	作業時は必ず保護具を着用すること。皮膚や眼に付着したりしないようにする。
環境に対する注意事項	河川、下水等の公共用水域に流さない処置を行うこと。
封じ込め及び浄化の方法及び機材	少量の場合は、ウェスで拭き取るか、又は、砂などの不活性媒体に吸収させるなどして拡散を防止するとともに、焼却処分する。残余のものは産業廃棄物として適正に処分する。
二次災害の防止策	多量の場合は、盛り土で囲って流出を防止し、安全な場所に導いてから処分する。防水シート等で覆いをし、漏出拡大の防止を図る。床が濡れた状態では滑りやすいので処理をする。また、付近に他の薬剤、熱源、火気がある場合は速やかにその場から離す。

## 7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い	
技術的対策	飛散、漏洩等の防止措置をとる。取扱いは換気の良い場所で行う。
局所排気・全体換気	必要に応じて全体換気、局所排気を行う。
安全取扱注意事項	ゴーグル、保護衣、樹脂製手袋等の保護具を必ず着用する。 作業後は、手洗い・洗顔・うがいをし、関連器具を十分に洗浄する。

接触回避	『10. 安定性及び反応性』を参照。
衛生対策	取扱い後は手をよく洗うこと。
保管	
安全な保管条件	通気の良い場所に保管し、直射日光を避け、冷暗所で保管する。 火気、熱源より遠ざける。
安全な容器包装材料	消防法及び国連輸送法規で規定されている容器を使用する。 ポリエチレン等の樹脂製容器を使用する。

## 8. ばく露防止及び保護措置

管理濃度	設定されていない。
許容濃度	日本産業衛生学会 (2014 年度版) : 設定されていない。 ACGIH (2013 年度版) : 設定されていない。
設備対策	取扱い場所には洗眼設備を設置し、その位置を明示する。
保護具	呼吸用の保護具: 必要に応じてマスクを着用する。 手の保護具: 合成ゴム手袋又は、合成樹脂(ポリエチ)手袋を着用する。 眼、顔面の保護具: 保護めがね、ゴーグル型保護眼鏡を着用する。 皮膚及び身体の保護具: 状況に応じ、ゴム長靴、前掛けを着用する。

## 9. 物理的及び化学的性質

物理状態	液体
色	無色～淡黄色透明
臭い	ほぼ無臭
融点/凝固点	データなし
沸点又は初留点及び沸点範囲	データなし
可燃性	データなし
爆発下限界及び爆発上限界/ 可燃限界	データなし
引火点	データなし
自然発火点	データなし
分解温度	データなし
pH	<b>5.0～7.0</b>
動粘性率	データなし
溶解度	水(自由に混合)
n-オクタノール/水分配係数(log 値)	データなし
蒸気圧	データなし
密度及び/又は相対密度	<b>1.00～1.01 (20/4℃)</b>
相対ガス密度	データなし
粒子特性	データなし

## 10. 安定性及び反応性

反応性	知見なし。
化学的安定性	通常の取扱い条件においては、光、熱、衝撃に対して化学的に安定。
危険有害反応可能性	知見なし。
避けるべき条件	知見なし。
混触危険物質	知見なし。
危険有害な分解生成物	知見なし。

## 11. 有害性情報

急性毒性	経口: 緑茶乾留エキスの LD <sub>50</sub> (ラット) > 30g/kg、抗菌剤の LD <sub>50</sub> (ラット) = 848mg/kg (区分4)であり、含有量からの推定により、製品として分類 JIS で区分に該当しないとした。 経皮: データなし。 吸入(気体): データなし。 吸入(蒸気): データなし。 吸入(粉塵): データなし。 吸入(ミスト): データなし。
------	---

皮膚腐食性／刺激性	(緑茶乾留エキス) 皮膚一次刺激性(ウサギ):皮膚への刺激はきわめて軽度であった。 皮膚累積刺激性(モルモット):皮膚累積刺激はほとんど見られなかった。 (抗菌剤) 皮膚刺激性:重篤な皮膚の損傷 区分1 含有量からの推定により、製品として分類 JIS で区分に該当しないとした。
眼に対する重篤な損傷性 ／眼刺激性	(緑茶乾留エキス) 眼粘膜刺激性(ウサギ):眼粘膜に対し刺激なし。 IC <sub>50</sub> 値 $\geq 1,000 \mu\text{g/mL}$ にて無刺激性(40%緑茶乾留エキス水溶液, SIRC-NRU 法) (抗菌剤) 眼刺激性:重篤な眼の損傷 区分1 含有量からの推定により、製品として分類 JIS で区分に該当しないとした。
呼吸器感受性又は皮膚感受性	(緑茶乾留エキス) 皮膚感受性試験:RIPT(アレルギーテスト/累積刺激)にて陰性(40%水溶液)。 (抗菌剤) 皮膚感受性:区分に該当しない。 含有量からの推定により、製品として分類 JIS で区分に該当しないとした。
生殖細胞変異原性	(緑茶乾留エキス) 変異原性:5,000 $\mu\text{g/plate}$ 濃度にて細菌に対する遺伝子突然変異誘発能は有さない(40%水溶液、Ames 試験)。 (抗菌剤) 生殖細胞変異原性:区分に該当しない 含有量からの推定により、製品として分類 JIS で区分に該当しないとした。
発がん性	データなし。
生殖毒性	(緑茶乾留エキス) 生殖毒性:妊娠前、妊娠初期、周産期、授乳期並びに胎仔の器官形成期に 10mL/kg/日を投与した結果、F2 世代ラットで受胎率に有意の低下が認められた以外、異常なし。 含有量からの推定により、製品として分類 JIS で区分に該当しないとした。
特定標的臓器毒性(単回ばく露)	データなし。
特定標的臓器毒性(反復ばく露)	データなし。
誤えん有害性	データなし。
12. 環境影響情報	
生態毒性	魚毒性 (緑茶乾留エキス) ヒメダカ 96 時間 LC <sub>50</sub> > 10,000mg/L その他 (緑茶乾留エキス) シンコ 48 時間 EC <sub>50</sub> = 1,000~10,000mg/L の間 藻類生長阻害試験 ErC <sub>50</sub> (0-72hr) > 10,000mg/L
水生環境有害性 短期(急性)	(抗菌剤) 水生生物に非常に強い毒性 区分1 含有量からの推定により、製品として分類 JIS で区分に該当しないとした。
水生環境有害性 長期(慢性)	データなし。
残留性・分解性	データなし。
生体蓄積性	データなし。
土壤中の移動性	データなし。
オゾン層への有害性	データなし。
13. 廃棄上の注意	
化学品(残余廃棄物)、当該化学品が付着している汚染容器及び包装の安全で、かつ環境上望ましい廃棄、又はリサイクルに関する情報	廃棄においては、関連法規並びに地方自治体の基準に従うこと。都道府県知事などの許可を受けた産業廃棄物処理業者、もしくは地方公共団体がその処理を行っている場合には、そこに委託して処理する。 関連法規並びに地方自治体の基準に従って適切な処分を行う。

## 14. 輸送上の注意

国際規制	
海上規制情報	非該当
航空規制情報	非該当
国内規制	
陸上規制情報	非該当
海上規制情報	非該当
航空規制情報	非該当
輸送又は輸送手段に関する 特別の安全対策	直射日光、水漏れ、湿気、火気、熱源を避け、容器の破損、漏れのないように積み込む。粗暴に取り扱わない。 荷崩れ、落下などに注意する。容器が破損しないように注意する。 容器を投げない、落さないこと。容器の上に乗らないこと。 輸送作業は取扱い及び保管上の注意事項に留意して行う。
緊急時対応措置指針	なし

## 15. 適用法令

労働安全衛生法	非該当
毒物及び劇物取締法	非該当
化学物質排出把握管理促進法	非該当
消防法	非該当

## 16. その他の情報

## ・記載内容の取扱い

全ての資料や文献を調査した訳ではないため、情報洩れがあるかも知れません。また、新しい知見の発表や従来の説の訂正により内容に変更が生じることがあります。

重要な決定等にご利用される場合は、試験によって確かめられる事をお薦めします。なお、含有量、物理化学的性質等の数値は保証値ではありません。また、注意事項は、推奨用途上の通常的な取扱いを対象としたものなので、推奨用途から外れる特殊な取扱いの場合には、この点にご配慮をお願いします。

## ・問合せ先

担当部門 ケミカルサービス事業本部

電話番号 03-3267-4073 FAX 番号 03-3267-4106